## 平成29年度進捗評価シート 佐川町歴史的風致維持向上計画(平成21年3月11日認定) (最終変更平成26年3月31日)

## □進捗評価シート(様式1)

①組織体制(禄式1一1) 1 庁内会議及び佐川町歴史的風致維持向上計画	協議会の開催 ・・・・	1
②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式 1 対策と連携による今後の措置	t1-2)	2
③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する 1 まちの駅活性化事業(協議会活動助成事業)	S事項(様式1-3)	3
④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4)	手団はについて	4
1 文化財の保存・活用に関わっている住民、NPO等各種	単凹体について・・・	4
2 文化財の保存及び活用の普及・啓発について		5
3 文化財の防災について		6
4 埋蔵文化財の取り扱いについて		7
5 文化財の修理について		8
文化財の保存・活用を行うための施設について		8
文化財の周辺環境の保全について		8
⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5)		
1 住民主役の地域活動表彰		9
2 佐川町出身「移民の父」水野龍創業カフェ帰郷		10
3 牧野博士の交流史学ぶ		10
4 佐川の町並み模型続々		11
5 第126回高新写真コンテスト		12
□法定協議会等におけるコメントシート(様式2)		13

進捗評価シート (様式1-1)

評価軸①-1 組織体制 評価対象年度	29年度
項目	現在の状況
庁内会議及び佐川町歴史的風致維持向上計画協議会の開催	□実施済 ■実施中 □未着手

佐川町歴史的風致維持向上計画を円滑かつ着実に遂行するために、計画推進体制(事務局と審議組織との している内容 連携)を強化し、歴史的風致維持向上計画協議会の活動をサポートしていく。

#### 定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

庁内組織体制(チーム佐川推進課・産業建設課・教育委員会事務局)の連携を密にして、歴史的風致維持向上計画協議 会のサポート体制を強化するために、平成28年度より、原則的に毎月第3木曜日を庁内定例会議の日と決め開催してきた が、平成29年度もほぼ予定どおり実施できた。その折々の事業の進捗状況、課題を協議し合った。庁内会議は年間10回、 歴史的風致維持向上計画協議会は1回開催した。

#### 進捗状況 ※計画年次との対応

#### 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

■計画どおり進捗している 口計画どおり進捗していない

昨年度に庁内会議の定例化という変革をしたことで、3部署の職員の歴史まちづくり事業に対 する意識の共有化が進んできた。歴史的風致維持向上計画協議会の協議事項についても、庁 内会議で事前に十分練ったうえで付議するようになった。歴史的風致維持向上計画協議会につ いては、委員によりまだまだ歴史まちづくり事業に対しての温度差があるところがあり、同協議会 全体の認識を高めていくことが課題である。

### 状況を示す写真や資料等



庁内会議

平成29年11月16日 平成29年4月20日 平成29年5月18日 平成29年12月20日 平成29年6月22日 平成30年1月18日 平成29年7月20日 平成30年2月20日 平成29年8月23日 平成30年3月20日

庁内会議の模様

第1回協議会の模様



佐川町歴史的風致維持向上計画協議会

第1回(平成30年3月30日)

#### ◇報告事項

- (1)平成29年度歴史まちづくり事業の報告
- ・リーフレット作成について
- ・観光振興事業について
- ・国登録有形文化財について
- ◇協議事項
- (1)佐川町歴史的風致維持向上計画(現行 計画)の最終評価について
- (2)佐川町歴史的風致維持向上計画の第2 期計画の策定について
- (3)平成30年度歴史まちづくり事業について
- ・竹村家土蔵のリーフレットの作成
- ・歴史まちづくり法10周年記念シンポジウム(堀見町長パネラー)への参加
- -5/11~12、埼玉県川越市-

進捗評価シート		(様式1−2)
評価軸②-1	, _tt_ 7	
重点区域における良好な景観を形	が り る 他 束 評価 対象 年度	29年度
		現在の状況
サ	78.8	□実施済
施策との連携による今後の措置		□実施中 ■未着手
計画に記載 史的風致維持向上計画	成5年度から10年間実施した街なみ環境整備事業に対応して策定し 国に合致した内容となっていないという問題点がある。そのため、今後 び景観条例の策定をめざすことにより、歴史的風致に合致した街なみ	こおいては、景観
	性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で	
員会事務局)の協議において、歴5 歴史的建造物が建ち並ぶ地域であ 画を策定するまでもなく、現行の街	策定」費用を計上したが、その後の庁内会議(チーム佐川推進課・産業 史的風致の重点区域は、面積も20.3haと広くなく、その中に白壁の酒蔵 5り、高層建築や奇抜な意匠の建物が建つ可能性が低いと判断される なみ景観条例の見直しで対応は十分ではないか、との結論に達した。	ではいる。   それでは、   それでは、   ままれている。   ままれている。
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述	)
□計画どおり進捗している ■計画どおり進捗していない	将来的には、景観計画を策定する必要性も生じるかもしれないが、現 角存在する現行の街なみ景観条例を見直して対応する方針である。	況においては折
	」 状況を示す写真や資料等	

進捗評価シート (様式1-3)

#### 評価軸3-1 歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項 29年度 評価対象年度 現在の状況 項目 □実施済 まちの駅活性化事業 (協議会活動助成事業) ■実施中 □未着手

#### 事業期間 平成21年度~平成30年度

支援事業名 社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)

住民主体によるソフト事業を実施し、重点区域を核とした歴史的風致を維持向上する活動をさらに他地域にま で広げると共に、町外にも広く発信する。また、歴史的建造物の保存・活用に向けての住民意識啓発の活動も している内容 併せて取り組むことで、竹村家住宅周辺の良好な市街地環境の形成に寄与し、佐川町の歴史的風致の維持向 上を図る。

#### 定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

平成26年に作成した牧野富太郎ふるさと館のリーフレットをリニューアルし、現在の展示・活動内容に合わせたものとした。 また、連絡先も更新し、町外向けへの頒布が可能となったことにより、より一層の啓発活動が図られる。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
■計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない	本町の歴史まちづくりは、対外的にまだ認知度が低いことから、現有及び新作の啓発素材を活用して、更に周知を図っていく。また、同協議会委員の意識を更に高めていく取り組みが必要となる。
状況を示す写真や資料等	





富太郎

1~密6 無料

開館時間

文久 2 (1862) 年 (1957) 月曜日 (祝日の場合は開放し 年末年始 (12月29日~1

●休館日 入福料





牧野博士生家を再



るうなった

\* 14 mm + 14 mm



は関格がないため、資料展示室と集会施設 外限や原匠はでも得る限り当時を再選し





リーフレット表面

リーフレット裏面

TEL 0889 (20) 9800 FAX 0889 (20) 9801

上ゆかりの

料を

評価軸④-1		
文化財の保存又は活用に関する事項		
	評価対象年度	平成29年度
項目		現在の状況
文化財の保存・活用について		□実施済
文化財の保存・活用に関わっている住民、NPO等各種団体について		■実施中
大心別の保存・活用に関わっている住民、NFO等各種団体について		□未着手

している内容

現在、文化財の保存活用に携わる団体は積極的かつ地道な活動を展開しており、まちづくり行政等との連携 計画に記載も十分とれている。

今後も、こうした活動の前進を更に目指し、行政との連携も一層強化する。

#### 定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

重点区域内に移築された名教館では、佐川が輩出した偉人のパネルを展示し文教の町佐川をPRした。また、歴史学講 座、高知大学出前公開講座等を開催し、文化財の活用に努めた。佐川高校地域学習では上町地区の歴史的建造物につ いて観光ボランティアから説明を受けるなど文化財等についての学習を行った。国の登録有形文化財建造物に登録された 旧竹村呉服店は1階部分を貸店舗、2階部分を一般公開するなど文化財の活用が図られている。

#### 進捗状況 ※計画年次との対応

#### 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

■計画どおり進捗している 口計画どおり進捗していない NPO法人、観光協会は定期的にイベントを開催しており、集客数は増加傾向である。地 元唯一の公立高校である佐川高校の地域学習も定着してきており、今後も観光ボラン ティア、観光協会と連携し、活発な情報配信と文化財の活用を図りたい。

#### 状況を示す写真や資料等



佐川高校地域学習でボランティアガイドから国重要 文化財「竹村家住宅」の説明を受ける佐川高校1年生

平成29年4月28日 (35名)



平成30年3月に国登録有形文化財に 登録され、店舗として活用されている 「旧竹村呉服店」



▲平成29年度高知大学出前公開講座 名教館

平成29年10月11日~10月25日 (4回延べ 110名)



▲上町で開催される酒蔵ロード劇場の会場 として影絵を謄写した佐川文庫庫舎

平成29年11月18日

進捗評価シート (様式1-4)

# 評価軸④-2 文化財の保存又は活用に関する事項 項目 項目 東価対象年度 現在の状況 文化財の保存及び活用の普及・啓発について □実施済 □実施内 □未着手

計画に記載 文化財の価値を町民がより理解し、保存や活用の意識を高めるため、学校教育では町独自の文化財教育・文化財見学会を実施し、社 している内容 会教育等では文化財や町の歴史に関する教室の開催、分かりやすいパンフレットの作成による啓発活動などを行う。

#### 定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

黒岩小学校で卒業生(高校生)も含めて、「太刀踊り子ども教室」を開催し、高知県の無形民俗文化財である「佐川の太刀踊り」の継承に取り組んだ。他にも斗賀野小学校児童による花取踊り(町指定無形民俗文化財)や黒岩中学校で瑞応の盆踊り(県指定無形民俗文化財)に児童・生徒が取り組み、地域の行事などを通じて成果を披露し、地域の伝統芸能としての位置づけを高めた。また、平成29年度には佐川町内の文化財の見直しを行い、「佐川町の文化財」冊子を刊行し、町内小中学校や関係機関に配布し文化財の啓発活動に取り組んだ。

#### 進捗状況 ※計画年次との対応

#### 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

■計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない 児童・生徒が積極的に参加し、無形民俗文化財の継承に取り組んでいる。また、ふるさと教育 充実のため、現在小学3,4年生対象の副読本「佐川の暮らし」を義務教育9年間使用できる内容 改訂に向けてこれから協議検討を行っていく。

#### 状況を示す写真や資料等



← 「四ッ白太刀踊り」 県指定無形 民俗文化財

黒岩地区の小中高生が積極的に参加し継承に取り組んでいる。 11月3日の仁井田神社の秋の大祭で神事のあと太刀踊りを奉納している。

小中学校の運動会や地域で開催されている城山まつりや黒岩地区で開催されている黒岩短縮マラソン大会でも披露している。



←「白倉神社花取踊り」 町指定 無形文化財

斗賀野地区の小中学生が積極的に参加し継承に取り組んでいる。 11月12日の白倉神社の秋の大祭では保育園児が神輿を担いでおなばれを執り行い白倉神社で花取りを奉納後、見物人に餅投げを行うなど地域の祭りとして定着している。



←「瑞応の盆踊り」 県指定無 形文化財

黒岩瑞応地区が中心となり、 瑞応盆踊りを継承していくため、 中学生の指導にあたっている。 8月16日は、夏休みで夜間の

8月16日は、夏休みで夜間の ため、中学生は個人参加として いる。

いる。 また、近隣の市町村との文化 交流も行っている。 進捗評価シート (様式1-4)

#### 評価軸4-3 文化財の保存又は活用に関する事項 評価対象年度 29年度 項目 現在の状況 口実施済 文化財の防災について ■実施中 □未着手

現在も実施している所有者、地域住民、消防署、地区消防団が一体となった防火訓練もさらに質量ともに充実したものとしていく。加えて、「文化財防火デー」には、上記住民・団体及び文化財保護審議会委員等が各地区の文化財においての消火訓練を実施しており、今後も継続していく。

#### 定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

重点区域内には自主防災組織が設立されており、地域の防災についての意識も高い。文化財防火デー(1月26日)には、 黒岩地区で文化財を対象に消防署、消防団とともに初期消火訓練を実施し防火意識の向上を図った。

また、文化財巡視パトロールなど、あらゆる機会を通じて、引き続き文化財の保存や防災の大切さについて関係者などに 周知を行った。

#### 進捗状況 ※計画年次との対応

#### 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

■計画どおり進捗している 口計画どおり進捗していない

南海地震の発生が予測されていることもあって、地域住民の防災について一定理解が高まって いるが、今後も、引き続き、各地区を回り、防災意識の啓発及び文化財に対する理解を深めても らう活動を続けていく必要があると思われる。

#### 状況を示す写真や資料等



▲1月26日 文化財防火デー 黒岩地区瑞応寺跡にお いて火災発生を想定し、通報訓練等及び初期消火訓練 を実施した。



▲ 1月26日 文化財防火デーの防火訓練には地域住民、地 元消防団、消防署、文化財保護審議会委員が参加し、消防署 員の指導の元、消防署への模擬通報、地元消防団による放水 訓練、地域住民による消火器での初期消火訓練等を実施後、

消防署から講評を受けた。 また、実地訓練終了後には、文化財保護審議会会長より、 文化財保護の重要性について説明を行い、参加者は熱心に耳 を傾けた。

進捗評価シート (様式1-4)

# 評価軸④-4 文化財の保存又は活用に関する事項 評価対象年度 29年度 項目 現在の状況 埋蔵文化財の取り扱いについて □実施済 ■実施中

計画に記載 機会あるごとに埋蔵文化財の持つ意義や重要性及び所在地を町広報やその他の方法により広く住民に周知す している内容 る。

#### 定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

町内の主要な埋蔵文化財については、年1回、2日にわたり巡視パトロールを行い保存状態を確認している。また重点区域内の佐川城跡については、平成28年10月12日に文化財保護審議会委員(巡視員)とともにパトロールを実施し、昨年度の写真の比較や、目視により保存状態に変化はないことを確認している。

# 進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述) ■計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない 現在のところ埋蔵文化財について広く住民に周知するには至っていない。また、埋蔵文化財包蔵地である佐川城跡などの調査について専門的な職員が不在であることなどにより未着手となっている。

#### 状況を示す写真や資料等



#### ◀ 佐川城跡

石積み部分には今のところ異常はみられないが、周辺の雑木による 悪影響が発生しないよう伐採を順次、予定している。



#### ◀ 佐川城跡縄張図

(平成29年度、佐川町教 育委員会刊行「佐川町の 文化財」より転載) 進捗評価シート (様式1-4)

#### 

計画に記載している内容

文化財の修理及び整備については、定期的な清掃及び点検確認を行い、文化財巡視員による定期的なパトロールを実施する。 文化財の保存・活用を行うための施設は、財政状況との調整を図り、施設の改善計画を立て課題解消に向けて具体的に着手する。 文化財の周辺環境の保全については、まちづくり行政と文化財行政がより連携を強化し、文化財の周辺環境の保全を図っていくことと する。

#### 定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

「旧浜口家住宅」、「名教館」、「佐川文庫庫舎(旧青山文庫」)は、さかわ観光協会を指定管理者とし良好な状態で管理されている。 また、重点区域内の文化財の周辺環境は、地域住民やNPO法人くろがねの会、NPO法人さかわ観光協会により良好に保全されている。なお、国重要文化財「竹村家住宅」は近い将来、抜本的な補修の必要がある。

「旧竹村家呉服店」は、平成26年度~平成28年度で修復後、平成29年度、国登録有形文化財に登録され、1階部分は店舗として活用 されている。

#### 進捗状況 ※計画年次との対応

#### 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

■計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない 現在のところ、町立施設は概ね良好な保存状態であるが、今後においては、重点区域内に現存する歴史的建造物について大規模な修繕等が生じると予測される。引き続き 支援策等を検討していきたい。

#### 状況を示す写真や資料等



▲ さかわ観光協会が管理する「佐川文庫庫舎」



▲ さかわ観光協会が管理する「名教館」



▲国登録有形文化財(建造物)に登録された「旧竹村呉服店」



▲ さかわ観光協会の事務所がある「旧浜口家住



▲ 重点区域の文化財周辺の環境は良好に保全されてい

評価軸(5)-1

#### 果・影響等に関する報道 評価対象年度 29年度 報道等タイトル 年月日 掲載紙等 住民主役の地域活動表彰 平成29年4月12日 高知新聞

#### 定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

本年度は地元新聞に5回、佐川町の歴史まちづくり関連の記事が掲載された。特徴的なのは、例えば子供、住民団体、 個人などの様々な取り組みが取り上げられたことだ。このことは、歴町さかわの意識が住民の中に徐々に醸成されているこ との表れではないだろうか。

#### 進捗状況 ※計画年次との対応

#### 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

□計画の進捗に影響あり ■計画の進捗に影響なし

住民主導、住民発案の取り組みがもっともっと活発になるように、行政も支援していかな ければならない。

#### 状況を示す写真や資料等

2017年(平成29年) 4月12日(水曜日) 地域 2 🙀

(24)

県内支社局

土佐 支局

\$ 0000.0000.040-

領北 支局

脱りののできるいでいるのの

香長

総局



表彰される「牧野公園はなもりC LOVE」のメンバー(佐川町乙)

【佐川】高岡郡佐川町は、地域活性化に取り組 む住民団体を表彰し、継続して町づくりに貢献してもらおうと、「チームさかわ大賞」を創設し た。第1回の大賞には牧野公園の植栽を進める 「牧野公園はなもりC-LOVE(くらぶ)」を選 び、4月第2日曜日に設定した「チー -ムさかわの 日」に表彰した。 (吉川博之)

192 ま まるごと植物園部門 康福祉センターかわせ に医、 域づくりを目指してい マに、「チームさかわ」 に することにした。 4月第2日曜日を記念日 表彰式は同町乙の 、おもしろく」 総合計画を発表した 「はなもりー」 た住民参加型の地 を策定。「まじめ 、佳民活動を表彰 第5次町総合 季1 にまち 0 と学覧)〉佐川くろが 作 襲

平成29年4月12日 高知新聞

喜もぐめシ選画

(みんなの情報発 ▽端心の ジお怪り篇

祁刀 の 于 厶 <del>'</del> カヽ わ 大

植栽クラブ

N 0887 0000-00-0000 安芸支局 中芸

支局 A 0887:08:4800

室戸

#### 評価軸5-2

効果・影響等に関する報道			
型型である。 報道等タイトル		西対象年度 掲載紙等	29年度
佐川町出身「移民の父」水野龍創業カフェ帰郷	平成29年4月22日	高知新聞	
牧野博士の交流史学ぶ	平成29年4月27日	高知新聞	

#### 定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

本年度は地元新聞に5回、佐川町の歴史まちづくり関連の記事が掲載された。特徴的なのは、例えば子供、住民団体、個人などの様々な取り組みが取り上げられたことだ。このことは、歴町さかわの意識が住民の中に徐々に醸成されていることの表れではないだろうか。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
	住民主導、住民発案の取り組みがもっともっと活発になるように、行政も支援していかなければならない。

#### 状況を示す写真や資料等





#### 評価軸(5)-3

効果・影響等に関する報道			
			29年度
報道等タイトル	年月日	掲載紙等	
佐川の町並み模型続々	平成29年6月8日	高知新聞	

#### 定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

本年度は地元新聞に5回、佐川町の歴史まちづくり関連の記事が掲載された。特徴的なのは、例えば子供、住民団体、 個人などの様々な取り組みが取り上げられたことだ。このことは、歴町さかわの意識が住民の中に徐々に醸成されているこ との表れではないだろうか。

#### 進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述) □計画の進捗に影響あり 住民主導、住民発案の取り組みがもっともっと活発になるように、行政も支援していかな ■計画の進捗に影響なし ければならない。

#### 状況を示す写真や資料等

案片

周

(第3種郵便物認可)

村家住宅」などの模型を藩家老として佐川を治め 4点を次々と完成させ、同町甲の佐川地場産セ 栗田さんは約10年前か 国の重要文化財「竹 ターに展示している。町の観光関係者らは 模型見学で佐川をより深く知ってもらえれ りに取り組む栗田真二さん(67)=本郷耕= 同町出身の翻訳家、西谷退三(本名・竹村 1005~1957年) 邸などの新作 は約3年半かけて、 作り続けている。昨春に 、土佐

高岡郡佐川町で歴史的建造物の模型

HA

みられる西谷退三の邸

の模型を立て続けに制を営んでいた高根製紙蔵

宅。18世紀末に出版され

模型は計21作品になっ 作。栗田さんが手掛けた

上町地区では、

イア「佐

# 地元の栗田さん制作

西谷退三邸など4点

げてきた。 された建物を畳10畳分の させ、 に現存する建物を対象 約20分の1の模型に仕上 大作で再現した。 てきた深尾家屋敷を完成 江戸時代終わりから明治 昨夏に着手したのは、 この1年間は佐川町内 丁寧に建具類を作り、 ヒノキ材や和紙など 明治初期に取り壊

上げた。 焼酎蔵、 見学。母屋や離れなどを 細部まで丁寧に調べて資 し、著述に当たった。 者の許可を得て、邸内を を生涯かけて翻訳した西 た英国自然文学の名著 セルボーンの博物誌

その後も司牡丹酒造の 栗田さんは西谷の関係 かつて町内で製紙業 晩年を佐川で過ご 、乗台寺近くの神 約3カ月間で仕 ている。 ている。 ば、佐川の歴 ず建物をイメ した後、 産センターで 川くろがねの イドのボランティア った後で町 栗田さんは 加斯



ンの博物誌」を翻訳した

100

平成29年6月8日 高知新聞

進捗評価シート (様式1-5)

#### 評価軸(5)-4

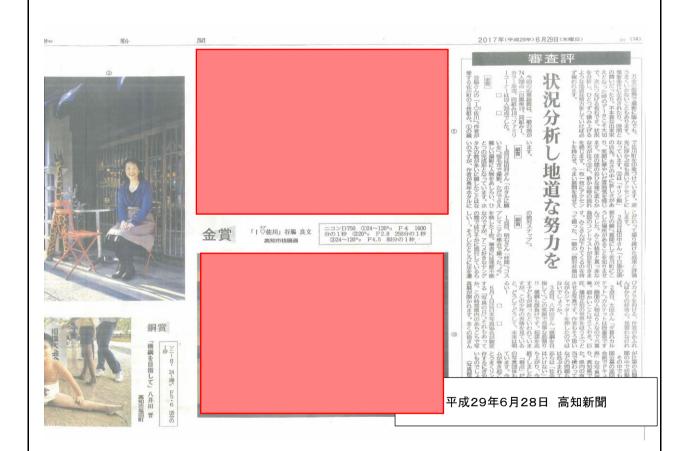
効果・影響等に関する報道			
評価対象年度 293			29年度
報道等タイトル	年月日	掲載紙等	
第125回高新写真コンテスト	平成29年6月28日	高知新聞	

### 定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

本年度は地元新聞に5回、佐川町の歴史まちづくり関連の記事が掲載された。特徴的なのは、例えば子供、住民団体、 個人などの様々な取り組みが取り上げられたことだ。このことは、歴町さかわの意識が住民の中に徐々に醸成されているこ との表れではないだろうか。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
□計画の進捗に影響あり ■計画の進捗に影響なし	住民主導、住民発案の取り組みがもっともっと活発になるように、行政も支援していかなければならない。

#### 状況を示す写真や資料等



評価対象年度 29年度

## ・法定協議会等におけるコメント

コメントが出された会議等の名称:佐川町歴史的風致維持向上計画協議会

会議等の開催日時:平成30年3月30日

#### (コメントの概要)

委員A:観光客の若い女の子が「小野大輔さん(佐川町出身の声優)の音声ガイドが聞きたい」と言っていた。やはり、小野さん人気はすごい。こうした取り組みが若い人を呼び込むきっかけとなる。

委員B: 牧野公園があるせいか観光客に植物好きの人が多い。牧野公園には皆満足して帰っていただいているようだ。

委員C:ある町民の方が上町(重点区域内)を見て「佐川にこんなところがあったんやね。すごい変わっていてびっくりした」と驚いていた。まだまだ町民の中には上町を歩いたことがない人がいるのではないかと思った。

委員D:現行計画も10年目を迎えるのだから、地元の人の熱が高まるような、もっと足元を固める取り組みが必要だ。

委員E:地元の小中高生が上町に来て遊んでいる。ある高校生が、歴まち佐川の意味が分かった、と言っていた。これも一つの前進だ。

委員F:ただ上町だけでとどまっている、完結している。他の商店街との流れ広がりをどうつくっていくか、それが大事だ。そうすればお金も落ちるし、他の商店街の人たちも頑張るのではないか。

委員G:現行計画によってこの10年間、幾つかの事業を完了させてきた。これは大きな成果だ。しかし、肝心の司牡丹酒造(株)の白壁の酒蔵の修復・保存等が残っている。これらの建造物は老朽化も進んでおり、待ったなしだと思う。是非とも歴史的風致維持向上の第2期計画を策定して、こうした課題に取り組んでいくべきだと考える。

#### (今後の対応方針)

歴史的風致維持向上の現行計画は、平成30年度に終了するので、平成31年度から10年間 の第2期計画を策定し、今後の諸課題に対応していく。